

サヨナラだけが  
人生だ。  
サヨナラだけが  
ロマンスだ。



# ロマンス



大島優子  
大倉孝二  
野添好美  
窪田正孝  
西牟田恵



脚本・監督 ← タナダユキ

音楽:周防義和/Jirafa エンディングテーマ「Romance ～サヨナラだけがロマンス～」三浦透子  
製作:岡宮登良松 企画:加藤和央 プロデューサー:佐藤現 中澤研太 坂井正徳 音楽プロデューサー:津島玄一 宣伝プロデューサー:丸山香子  
キャスティングディレクター:杉野剛 撮影:大塚亮 美術:仲前智治 録音:小川武 編集:宮島電治(J.S.E.) スクリプター:増子さおり 衣裳:宮本茉莉  
助監督:松倉大夏 製作担当:鎌田賢一/ポスター撮影:川島小鳥 イラスト:いとう瞳 ポスターデザイン:大島依提聖 製作プロダクション:東北新社  
製作:東映ビデオ 配給:宣伝:東京テアトル 2015年/日本/97分/5.1ch/ビスタ/カラー/デジタル ©2015 東映ビデオ movie-romance.com



たった1日の出会いと別れ  
新宿 ↔ 箱根 間のプチ・トリップムービー  
Shinjuku Hakone





人生を“ちょっとだけ”肯定してくれる、小さな旅の物語。

## STORY

毎日たくさんの観光客を乗せて新宿⇄箱根間を往復する特急ロマンスカー。

北條鉢子は、ロマンスカーのアテンダント。仕事の成績は常にトップで、その日もつつがなく業務をこなしていたが、ひょんなことから映画プロデューサーを名乗る怪しい中年男客・桜庭に“母親からの手紙”を読まれてしまう。

桜庭に背中を押され、もう何年も会っていない母親を捜すことになった鉢子。

小田原城、箱根登山鉄道、大涌谷、たまご茶屋、芦ノ湖、仙石原、箱根関所……

かつて家族で訪れた箱根の景勝地をめぐる“私とおっさん”の小さな旅が始まった——。



**脚** 本・監督は『ふがいない僕は空を見た』、『四十九日のレシビ』のタナダユキ。『百万円と苦虫女』以来、実に7年ぶりとなる待望のオリジナル作品となる。しっかり者だが優柔不断で流されやすい一面もある北條鉢子を演じるのは、『紙の月』で日本アカデミー賞優秀助演女優賞ほか映画各賞を受賞し、幅広い役柄を演じる表現力に評価が高まる大島優子。AKB48卒業後初の主演映画となる今作では、母親への複雑な思いが次第に変化し、やがて自分自身も前を向いて歩けるようになる鉢子の姿を繊細な芝居で魅せてくれる。鉢子を振り回す映画プロデューサー・桜庭は、劇団ナイロン100℃に所属し、映画『ピンポン』、『陽だまりの彼女』などで強烈な存在感を見せる大倉孝二。飄々とした佇まいとツボを外さない確かな演技力で、桜庭のとぼけた憎めなさを活き活きと演じている。

**小** 田急グループの全面協力のもと、ロマンスカー車内や駅構内での撮影が実現。大島優子が着るキュートなアテンダントの制服も魅力のひとつ。クランクインから息がびったりだったという大島&大倉のコンビネーションは、楽しいリズムとなって映画全体を彩る。鉢子と桜庭が抱える過去は優しく、ふたりのちぐはぐなやりとりはユーモアたっぷりに描かれ、彼らの道中を見届けた先には、ふっと気持ちが軽くなる感動が待っている。たった1日の出会いと別れ＝ロマンスが、迷って生きていくことを“ちょっとだけ”肯定してくれる、小さな旅の物語がここに誕生！

